

【居宅介護支援事業所】新型コロナウイルス感染症が介護サービス利用者・ケアマネジメント等に及ぼす影響に関する調査 調査結果

調査期間	令和2年5月25日～令和2年6月1日
郵送した居宅介護支援事業所数	90 か所
回答のあった介護支援専門員数	153 人（問3の回答数は561件（内、影響有りは539件）

津中部東地域包括支援センター、津中部西地域包括支援センター、津中央地域包括支援センターの3つのセンターが合同で、ケアプランを委託している居宅介護支援事業所90か所に『新型コロナウイルスが介護保険サービスの利用者やケアマネジメント等に及ぼす影響を把握する』ことを目的としたアンケート用紙を郵送し、所属する介護支援専門員153人より回答を得た。

※津市内の居宅介護支援事業所121か所、介護支援専門員登録数325名の47%より回答を得た。

1. 基本情報

今回の調査では、3か所の地域包括支援センターが委託している介護支援専門員153人が担当している利用者5,517人のうち539人(利用者の9.8%)に、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、医療・介護サービスの利用に影響が出ている結果となった。

表1 令和2年4月分の担当プラン人数

予防プラン件数（総合事業対象者含む）	1,370 人
介護プラン件数	4,147 人
合 計	5,517 人

表2 新型コロナにより、令和2年3月までに利用していた方の介護サービス・通院について【影響のあった利用者の状況】

影響があった利用者数	539 人 (9.8%)
------------	-----------------

表3 令和2年4月に担当している利用者のうち、新型コロナにより、以下の影響が生じた利用者数

医療機関への入院が断られた	8 人
居住系や入所施設への入居・入所が断られた	32 人
様々な理由で、家族による支援（介護を含む）を受けられなくなった	121 人
在宅継続が困難になり、居住系や施設、医療機関等に入所・入院した	13 人
地域での見守りを受けていたが、受けられなくなった	8 人
通いの場・集いの場に行けなくなった	294 人

2-1 介護サービス、医療サービスへの影響があった利用者の属性

介護サービス、医療サービスへの影響のあった利用者の属性について以下の表を作成した。

影響のあった 539 人を年代別(表 4)でみると、一番多かった年代が 80 代 286 人(53.1%)であり、次に 70 代及び 90 代が 93 人(17.3%)であった。

介護度の分布については要介護 1 が最も多く 171 人(31.7%)、次に要介護 2 が 95 人(17.6%)であった。男女別でみると(表 5)女性が 345 人(64.0%)で、一番分布が多いのは女性で要介護 1 が 104 人(19.3%)であった。世帯別(表 6)では 296 人(54.9%)が同居であった。

表 4 年代別要介護度分布図(単位:人)

	50代	60代	70代	80代	90代	不明	合計	割合 (%)
事業対象者	0	0	2	7	1	0	10	1.9
要支援 1	1	2	17	46	6	0	72	13.4
要支援 2	0	2	16	42	10	0	70	13.0
要介護 1	3	8	31	91	37	1	171	31.7
要介護 2	3	3	15	58	16	0	95	17.6
要介護 3	1	1	6	23	14	0	45	8.3
要介護 4	0	2	3	15	6	0	26	4.8
要介護 5	1	1	3	4	3	0	12	2.2
未記入	0	0	0	0	0	38	38	7.1
合計	9	19	93	286	93	39	539	100.0

表 5 男女別要介護度分布図(単位:人)

	男	女	未記入	合計
事業対象者	0	9	1	10
要支援 1	20	52	0	72
要支援 2	11	59	0	70
要介護 1	64	104	3	171
要介護 2	39	55	1	95
要介護 3	18	27	0	45
要介護 4	7	18	1	26
要介護 5	6	6	0	12
未記入	5	15	18	38
合計	170	345	24	539

表 6 世帯別要介護度分布図(単位:人)

	独居	同居	未記入	合計
事業対象者	4	6	0	10
要支援 1	32	37	3	72
要支援 2	29	35	6	70
要介護 1	52	104	15	171
要介護 2	32	57	6	95
要介護 3	14	28	3	45
要介護 4	7	18	1	26
要介護 5	4	5	3	12
未記入	10	6	22	38
合計	184	296	59	539

2-2. 介護サービスへの影響

4月実績における各サービスへの影響についてみると、影響が最も多いサービスは訪問リハビリで87.8%、次いで通所介護86.8%、通所リハビリ84.8%となった。影響が少なかったサービスは訪問看護が27.6%、訪問介護が37.1%となった。

利用者や家族の心理として通所系サービスは、感染リスクを回避したいとの思いが強かったと考えられ、訪問介護は生活を支える必要性、訪問看護は医療を支える必要性から利用を継続したため影響が少なかったと考えられる。

表7 4月実績における介護度別・各サービスへの影響

		訪問介護	訪問看護	訪問リハ	通所介護	通所リハ	短期入所	その他
事業対象者	予定通り	0	0	0	0	0	0	0
	一部利用なし	0	0	0	4	0	0	0
	全て利用なし	0	0	0	6	0	0	0
	影響のあったサービス	0	0	0	10	0	0	0
要支援1	予定通り	4	1	0	2	2	0	3
	一部利用なし	1	1	1	17	5	0	1
	全て利用なし	2	0	0	31	8	0	0
	影響のあったサービス	3	1	1	48	13	0	1
要支援2	予定通り	9	0	0	3	3	0	6
	一部利用なし	3	2	5	15	7	1	1
	全て利用なし	3	0	2	23	3	0	0
	影響のあったサービス	6	2	7	38	10	1	1
要介護1	予定通り	26	3	1	13	2	1	9
	一部利用なし	18	1	5	65	10	0	2
	全て利用なし	8	1	5	45	12	3	3
	影響のあったサービス	26	2	10	110	22	3	5
要介護2	予定通り	21	6	2	15	5	2	7
	一部利用なし	6	0	7	28	5	1	1
	全て利用なし	1	0	1	16	13	7	1
	影響のあったサービス	7	0	8	44	18	8	2
要介護3	予定通り	14	5	1	7	2	3	6
	一部利用なし	1	1	3	15	4	1	0
	全て利用なし	3	0	1	7	1	3	0
	影響のあったサービス	4	1	4	22	5	4	0
要介護4	予定通り	7	2	0	1	0	2	7
	一部利用なし	1	0	2	8	3	4	0
	全て利用なし	0	0	0	0	0	0	0
	影響のあったサービス	1	0	2	8	3	4	0
要介護5	予定通り	4	4	1	3	0	1	1
	一部利用なし	1	1	3	2	1	1	1
	全て利用なし	2	1	0	1	0	2	0
	影響のあったサービス	3	2	3	3	1	3	1
未記入	予定通り	5	0	0	3	0	0	2
	一部利用なし	2	0	1	10	4	0	0
	全て利用なし	1	0	0	17	2	0	0
	影響のあったサービス	3	0	1	27	6	0	0
	一部利用なし	33	6	27	164	39	8	6
	全て利用なし	20	2	9	146	39	15	4
	A)影響のあったサービス合計	53	8	36	310	78	23	10
	B)影響を受けなかったサービス合計	90	21	5	47	14	9	41
	影響率 (A/A+B)	37.1%	27.6%	87.8%	86.8%	84.8%	71.9%	19.6%

3. 介護サービス利用中止の申し出をした人の割合

介護サービス利用中止の申し出をした人の内、同居世帯は277人(62.4%)であった。その中でも家族の申し出は103人(37.2%)で本人からの申し出93人(33.6%)を上回った。

独居世帯では、サービスの利用中止を申し出た人が167人(37.6%)であり、その中で本人からの申し出が59人(35.3%)、家族からの申し出が29人(17.4%)となった。

感染リスクに対し、同居の家族がいる場合に家族からのサービス利用停止が一番多く高齢の配偶者または現役世代の感染に対する意識が高いことがうかがえた。

表 8 介護サービス利用中止の申し出をした人の割合

	独 居				同 居			
	本人	本人と 家族	家族	事業所 都合	本人	本人と 家族	家族	事業所 都合
事業対象	2 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)
要支援 1	19 (61.3%)	2 (6.5%)	3 (9.7%)	7 (22.6%)	24 (68.6%)	3 (8.6%)	7 (20.0%)	1 (2.9%)
要支援 2	15 (55.6%)	4 (14.8%)	2 (7.4%)	6 (22.2%)	18 (54.5%)	4 (12.1%)	6 (18.2%)	5 (15.2%)
要介護 1	14 (28.0%)	3 (60.0%)	12 (24.0%)	21 (42.0%)	28 (28.0%)	15 (15.0%)	45 (45.0%)	12 (12.0%)
要介護 2	6 (20.7%)	0 (0.0%)	9 (31.0%)	14 (48.3%)	13 (24.1%)	5 (9.3%)	22 (40.7%)	14 (25.9%)
要介護 3	2 (14.3%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	11 (78.6%)	4 (15.4%)	0 (0.0%)	11 (42.3%)	11 (42.3%)
要介護 4	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	7 (87.5%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	8 (47.1%)	8 (47.1%)
要介護 5	1 (25.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	3 (50.0%)	2 (33.3%)
合 計	59 (35.3%)	11 (6.6%)	29 (17.4%)	68 (40.7%)	93 (33.6%)	28 (10.1%)	103 (37.2%)	53 (19.1%)

4. 【参考】昨年との利用実績の比較

図1と図2をみると昨年の各介護サービスの利用実績と今年3月、4月、5月の傾向の比較ができる。昨年の傾向は、通所介護が月間平均3823件、訪問介護3479件と多く、訪問看護1023件、訪問リハビリ381件と少なかった。訪問リハビリはサービス提供量そのものが少ないと推測される。

今年の3月、4月、5月については、通所介護のサービス利用の影響が目立ったが、訪問介護については昨年のサービス提供量からみると影響が少なかったと判断される。

図1 各サービス・各月ごとの利用数

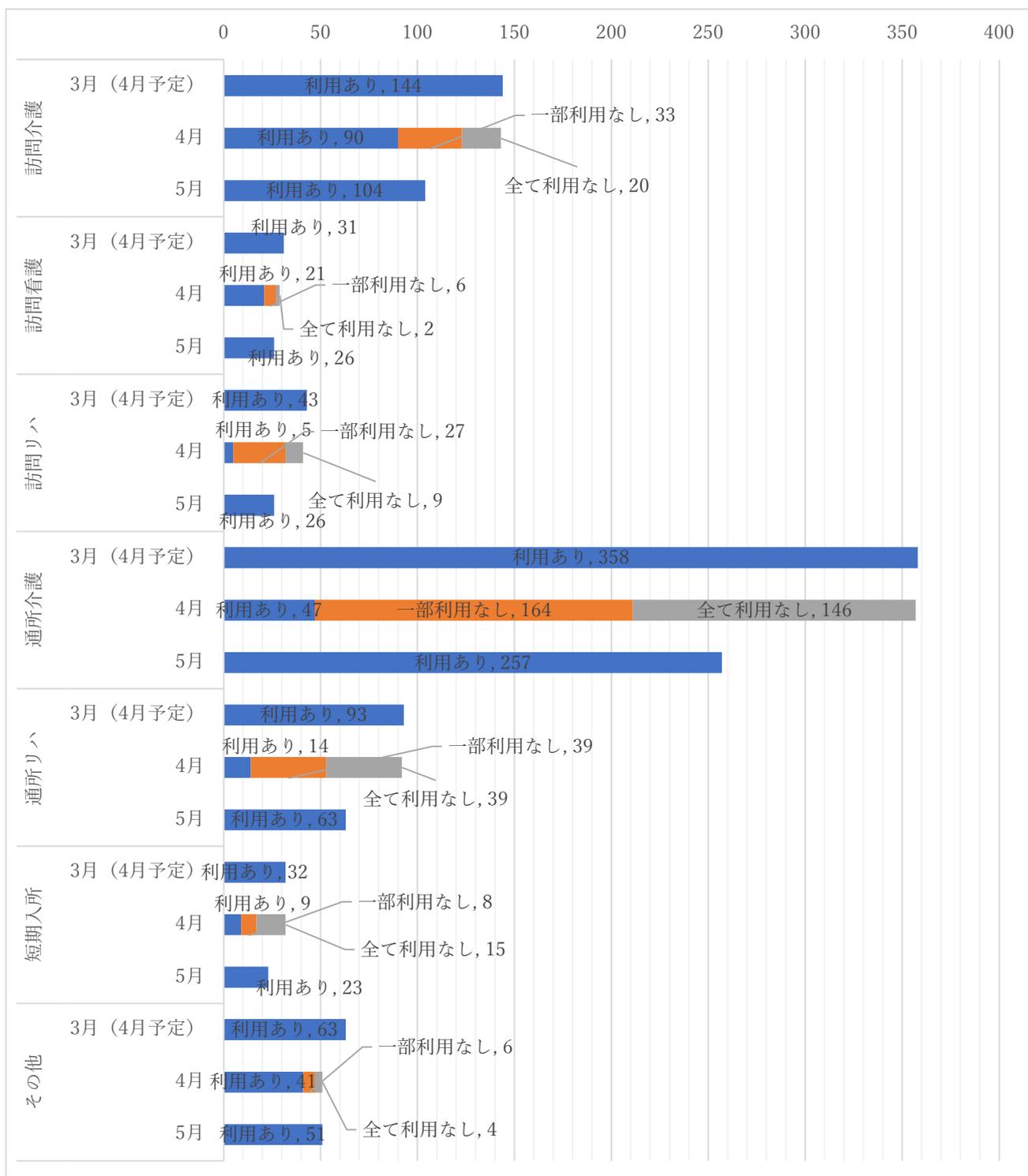
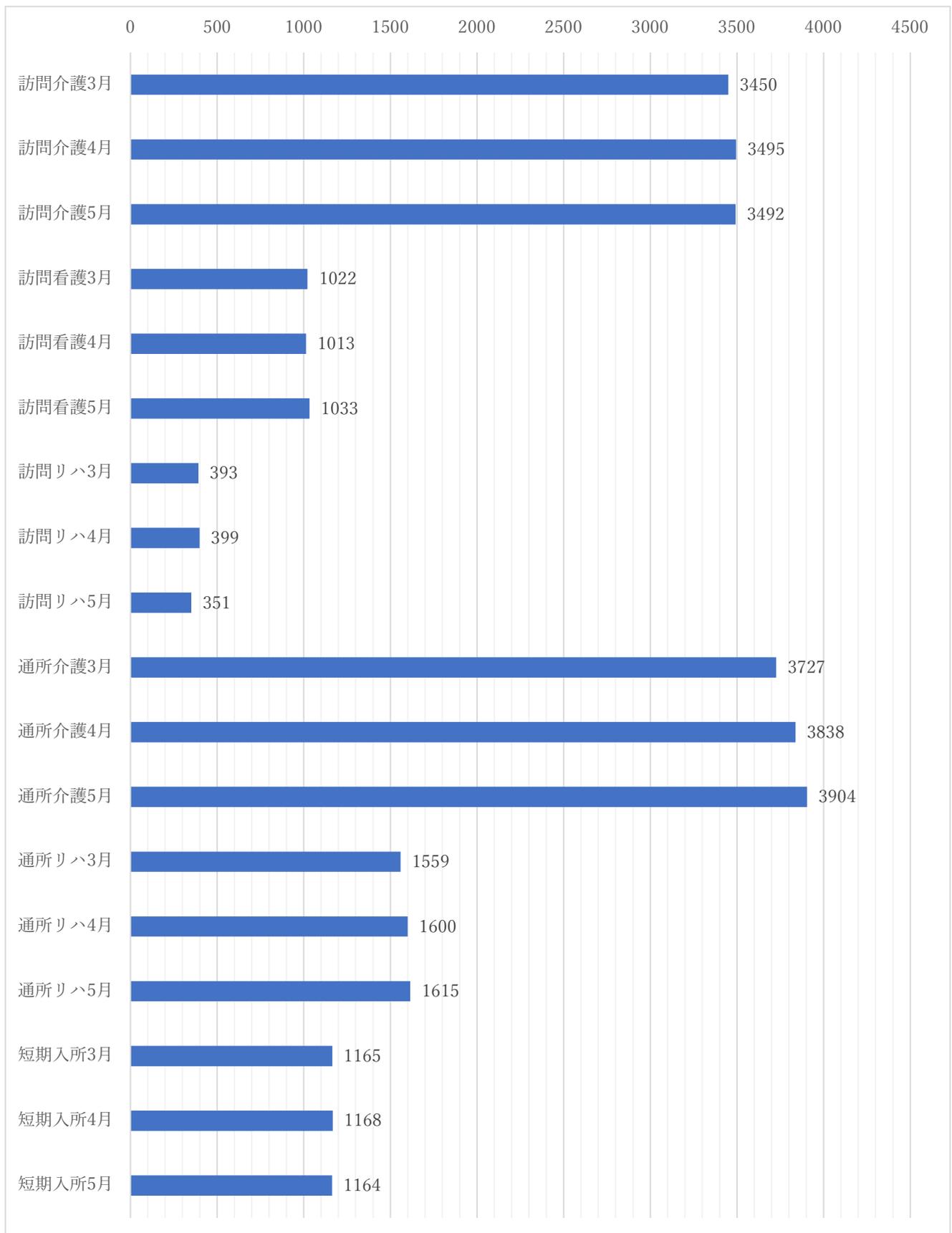


図 2 【参考】津市の昨年同月比における各サービスの利用実績



5. 5月中における介護サービスの利用再開

4月に介護サービスに影響があった人の5月の利用再開の状況を確認すると全体では再開できた人が237人(50.0%)、未再開の人が235人(50.0%)となった。各サービスでみると最も再開率が高いサービスが訪問看護で87.5%であった。次に通所リハビリが53.4%、通所介護が51.6%となった。

また、再開率が低いサービスは短期入所が最も低く33.3%、次に訪問リハビリが36.8%となった。

表9 令和2年4月に介護サービスに影響があった人の5月の利用再開の状況

	訪問介護		訪問看護		訪問リハ	
	再開	未再開	再開	未再開	再開	未再開
要支援1	1 (33.3%)	2 (66.7%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
要支援2	1 (16.7%)	5 (83.3%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	4 (57.1%)	3 (42.9%)
要介護1	12 (46.2%)	14 (53.8%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	6 (60.0%)	4 (40.0%)
要介護2	5 (71.4%)	2 (28.6%)			1 (12.5%)	7 (87.5%)
要介護3	3 (75.0%)	1 (25.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)
要介護4	1 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	5 (100.0%)
要介護5	2 (66.7%)	1 (33.3%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)
合計	25 (50.0%)	25 (50.0%)	7 (87.5%)	1 (12.5%)	14 (36.8%)	24 (63.2%)
	通所介護		通所リハ		短期入所	
	再開	未再開	再開	未再開	再開	未再開
要支援1	17 (35.4%)	31 (64.6%)	10 (76.9%)	3 (23.1%)		
要支援2	24 (63.2%)	14 (36.8%)	6 (60.0%)	4 (40.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
要介護1	57 (51.8%)	53 (48.2%)	10 (45.5%)	12 (54.5%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
要介護2	22 (50.0%)	22 (50.0%)	8 (44.4%)	10 (55.6%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)
要介護3	12 (54.5%)	10 (45.5%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
要介護4	10 (71.4%)	4 (28.6%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	4 (80.0%)	1 (20.0%)
要介護5	2 (66.7%)	1 (33.3%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
合計	144 (51.6%)	135 (48.4%)	39 (53.4%)	34 (46.6%)	8 (33.3%)	16 (66.7%)

6. 医療サービスへの影響

医療サービスへの影響(表 10)として、通院をした人 283 件(52.5%)、通院をしなかった人 160 件(29.7%)となり、通院をしなかった群において要介護 1 が 49 件 (30.6%) と多かった。

代替受診(表 11)にチェックが入ったものが 165 件で、一番多かったのが家族受診で 84 件(59.4%)となった。

通院しなかった人 160 件のうち、代替え受診しなかった件数は 24 件であり、全体の 15 パーセントとなった。本人や家族は、医療(受診や内服)をストップしてしまうと、疾患の悪化により命の危険性に繋がる不安が強い為、家族受診や電話受診等の代替受診を行ってでも、医療を継続したいという思いが強いのではないか。介護サービスを継続する必要性について、本人や家族が、正しく理解を持つことが必要。また、代替できるサービスの提案を各事業所が提示していく取り組みが必要だと思われる。

表 10 影響があった人の通院状況

	通院した人		通院しなかった人		未 記 入		合 計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
事業対象者	6	2.1%	3	1.9%	1	1.0%	10	1.9%
要支援 1	41	14.5%	13	8.1%	18	18.8%	72	13.4%
要支援 2	40	14.1%	17	10.6%	13	13.5%	70	13.0%
要介護 1	93	32.9%	49	30.6%	29	30.2%	171	31.7%
要介護 2	45	15.9%	33	20.6%	17	17.7%	95	17.6%
要介護 3	22	7.8%	16	10.0%	7	7.3%	45	8.3%
要介護 4	8	2.8%	12	7.5%	6	6.3%	26	4.8%
要介護 5	6	2.1%	6	3.8%	0	0.0%	12	2.2%
未記入	22	7.8%	11	6.9%	5	5.2%	38	7.1%
合 計	283	100.0%	160	100.0%	96	100.0%	539	100.0%
構成比	52.5%		29.7%		17.8%		100.0%	

表 11 通院しなかった人の代替受診方法

	電 話	オンライン	家 族	特になし	その他	未記入
事業対象	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要支援 1	3 (23.1%)	0 (0.0%)	5 (38.5%)	4 (30.8%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)
要支援 2	2 (11.8%)	0 (0.0%)	9 (52.9%)	6 (12.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護 1	11 (22.4%)	1 (2.0%)	20 (40.8%)	6 (12.2%)	4 (8.2%)	7 (14.3%)
要介護 2	3 (9.1%)	1 (3.0%)	21 (63.6%)	3 (9.1%)	4 (12.1%)	1 (3.0%)
要介護 3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (75.0%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)
要介護 4	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (66.7%)	0 (0.0%)	3 (25.0%)	1 (8.3%)
要介護 5	1 (16.7%)	0 (0.0%)	3 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)
未記入	3 (27.3%)	0 (0.0%)	4 (36.4%)	0 (0.0%)	4 (36.4%)	0 (0.0%)
合 計	25 (15.2%)	2 (1.2%)	84 (50.9%)	24 (14.5%)	21 (12.7%)	9 (5.5%)

その他内容
 往診：16件
 ケアマネ代理受診：1件
 施設職員代理受診：1件
 薬のみ：2件

7. 地域のインフォーマル資源の利用への影響

地域のインフォーマル資源の利用状況をみると「集いの場」、「高齢者サロン」、「運動・体操教室」、「習い事」、「認知症カフェ」といった従来から人気が高かった(多くの利用者を集めていた)地域のインフォーマルサービスの減少率が軒並み 90%以上となった。

これは、サロン等の主宰者側が、いわゆる 3 密の状態を回避するために開催を中止したためと考えられる。感染に配慮した形での再開や代替えのサービスの登場が望まれる。

表 12 地域のインフォーマル資源の利用状況

資源の内容	従来	利用困難	減少率
移動支援	16	6	37.5%
買い物支援	12	3	25.0%
集いの場	45	42	93.3%
高齢者サロン	53	48	90.6%
運動・体操教室	34	31	91.2%
家事支援	9	2	22.2%
習い事	28	27	96.4%
見守り	5	3	60.0%
認知症カフェ	11	10	90.9%
介護者の会	5	3	60.0%
食堂やサロンでの会食	15	12	80.0%
その他	5	5	100.0%
活用していない	48		
利用が困難になった資源はない		5	

その他：プール、福祉センターでの入浴、講座、シルバー人材、庭師、笑ヨガ、郷土史、カラオケ